

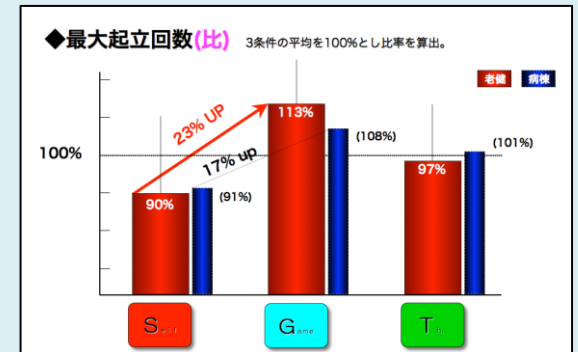
「リハビリ・ヘルスケアゲームの開発」

■目的

九州大学ではテーマをリハビリ・ヘルスケアとして、医療機関と連携をとりながらシリアスゲームプロジェクトを推進しています。単調になりがちなりハビリ訓練にゲーム要素を取り入れることで、利用者(主に高齢者)の訓練に対する積極性、持続性を増幅させ、健康維持へとつなげることが目的です。同時にゲーム、医療介護の産業発展にも寄与できればと考えています。

■概要

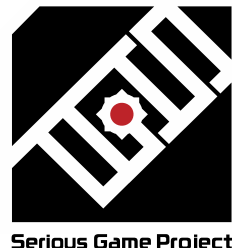
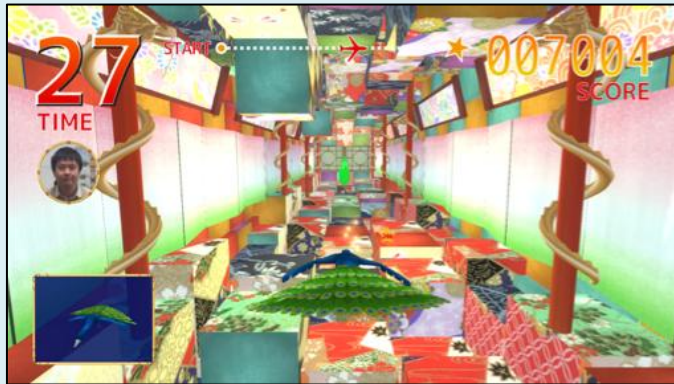
ゲーム開発の企画から開発、検証という流れでプロジェクトを推進し、これまでに起立着席運動をサポートするゲームなど複数点を制作しています。また、共同研究先である長尾病院ではゲームの有用性、安全性を示すための検証、1年間の長期利用による身体能力の変化検証を実施し、ゲーム利用がリハビリ・ヘルスケア分野で有効であるというエビデンスも得ています。なお、起立運動ゲームは「リハビリウム起立くん」として、(株)メディカ出版から2013年3月に販売開始されています。



「リハビリ・ヘルスケアゲームの開発」

■展開

2014年11月から2週間に1回の周期でロコモ運動サークルを実施しています。20名弱の高齢者の方が参加しており、ビデオを見ながらの体操に加え、自主訓練としてゲームを利用した運動を行っています。ここでもプロジェクトで開発した起立訓練ゲームに加え、片足立ちのバランスゲームやレクリエーション目的である太極拳ゲームを使用しています。今後も、ゲームのより良い利用方法や、場のデザインについて調査、研究を行っていきます。



九州大学シリアスゲーム プロジェクト

准教授 松隈 浩之

所在地：福岡県福岡市南区塩原